

木彫による造形研究 2022

クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *IWAI Yoshinao*

(美術領域)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素そのものが創り出す空間」を使い構成している。



Form 2302 「遊No.13」

第45回 中部二元展 2023年3月21日～26日

愛知県美術館 8F ギャラリー (A・B室) (名古屋市)

テーマ；「動き」「流れ」「生」「種」

立体作品における制作は、テーマからイメージし、形の根源を動物(人も含む)・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材(木)を彫ることにより形(Form)を創り出す手法で具現化した単体又は集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物を構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー(各種描画素材)にて、テーマを表現する研究をしている。



発表；「中部二元会研究展 2022」へ出品
(名古屋市民ギャラリー 7F・4室) 2022.10.04~10.09



Form 2204

樟 (クス) + 榿 (カヤ) + 真鍮棒
(台 ケヤキ H4×W40×D40)
H49×W60×D18 (cm)

「地からの誕生シリーズ」5番目の「Form 2204」は、積み重なった異なる要素の複合体である母体（一木造り）より発生した球状体により、特別な存在の「種」を表現した。



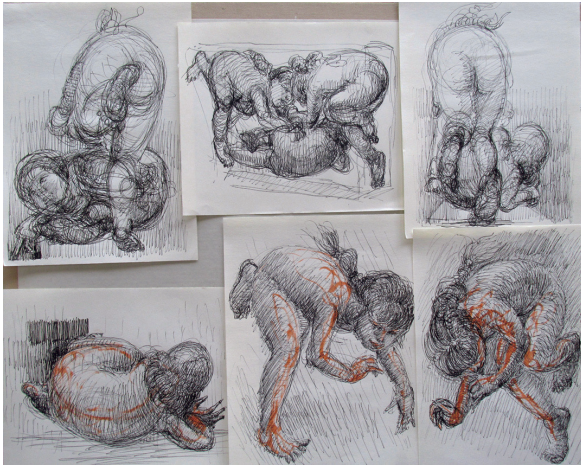
発表；第45回中部二元展へ出品
(愛知県立美術館 8F ギャラリー A・B室) 2023.3.21~3.26

Form 2301

榿 (ケヤキ) + 榿 (タモ) + 真鍮棒
* アフリカンパドック
H131×W101×D36 (cm)

「地からの誕生シリーズ」の6番目の「Form 2301」は、「Form 2204」と同様に積み重なった異なる要素の複合体である母体（一木造り）から発生した球状体により、特別な存在の「種」を表現した。





(A)

【アイデアの発端から展開】 Form 2302「遊No.13」のアイデアスケッチ6枚(A)を基に、紙粘土を使用した巾30cm程のマケット(針金の芯棒が入った模型)を作り、平面から立体への確認をする(B・C)。



(B)



(C)



(D)

【荒彫り・中彫り・仕上げ彫り】この制作のための素材として準備する事が出来た樟の原木へ下図(墨入れ)を施し(D)、電気チェーンソーを使い大きく面出しを行い、面出しをしたところに再度墨入れ(デッサン)を描き彫り進める(E・荒彫り)・・・「彫り」と「墨入れ」の繰り返しを行い形を作る。彫り込みは、電気チェーンソーや電動ドリルで大きく行き、叩きノミを使用して形を徐々に作り出して行く(F・G・中彫り)。

仕上げ彫りは、小道具や彫刻刀を使用して行う。

(完成作品は最初のページの画像参照)



(E)

Form 2302 「遊No.13」

樟(クス)
H70×W97×D53 (cm)



(G)



(F)

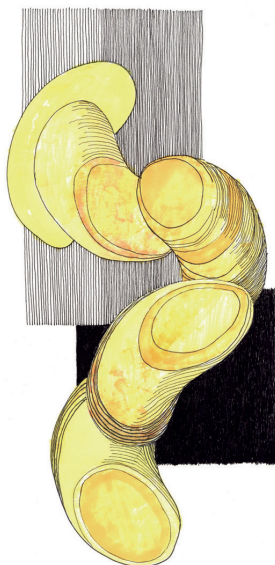


Form 2203

アメリカン・ブラック・ウォールナット
+水目桜
H33×W30×D35 (cm)

心地よい形の複数の異なる要素を集め、
特別な存在の「種」を表現した。
ひとつひとつ・・・要素は単純な形で
彫り出している。

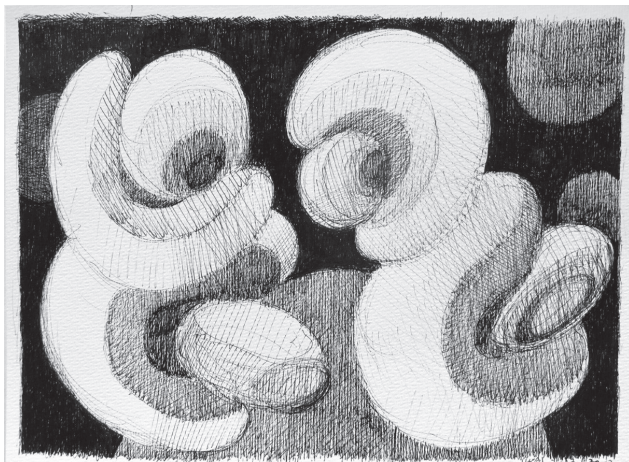
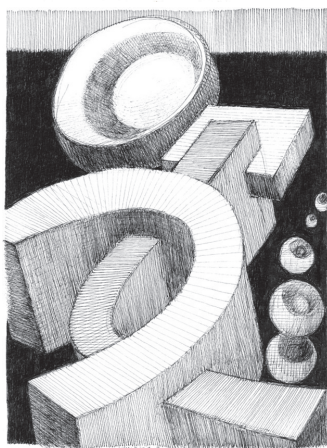
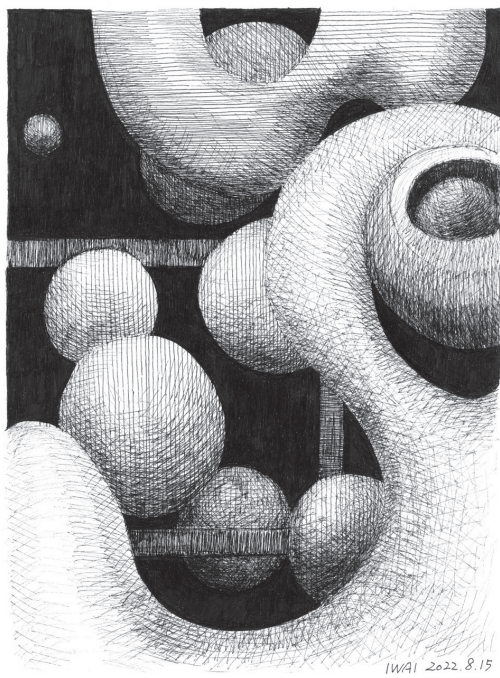
第49回 岩倉市美術展へ委嘱出品
2022.11.03～06
岩倉市総合体育文化センター アリーナ

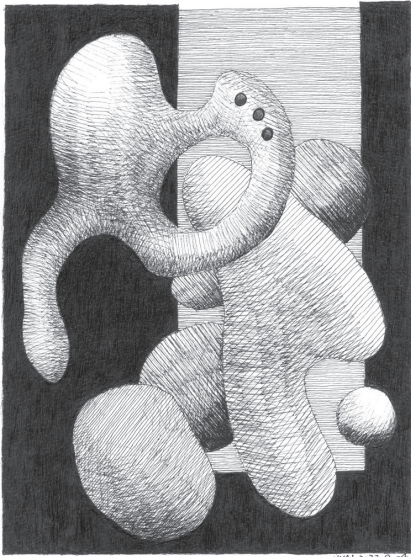


個人研究「木彫による
造形研究」の立体やレ
リーフ作品のためのアイ
ディアスケッチ (完成
予想図) と位置付けて
いる。

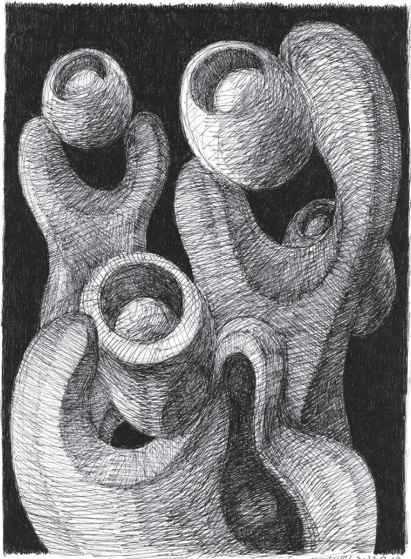
クロッキー会
「Art of 20歩」作品展
へ賛助出品

名古屋芸術大学
アートスクエア
(北名古屋市文化勤労
会館展示室)
2022.12.03～12.08





1601 2022.9.07-2



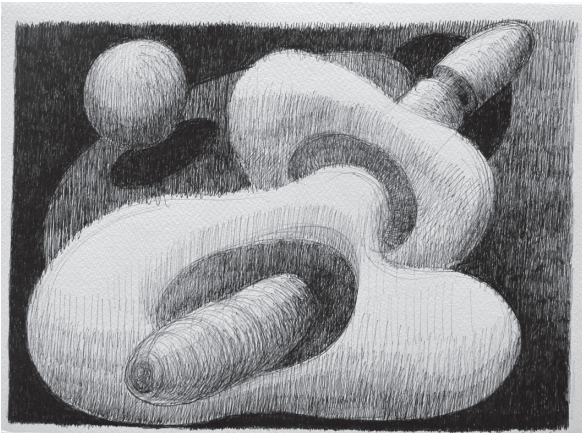
1601 2022.8.14



1601 2022.9.04

木彫による具象作品へと繋がる人物
ドローイング

木彫による抽象作品へと繋がるドローイング



1601 2022.9.03



「中部二元会研究展 2022」へ出品 (名古屋市民ギャラリー7F・4室)
2022.10.04~10.09



クロッキー

人体表現、抽象表現及び空間表現に繋がるモノが「クロッキー」と考える。人体の流れと繋がりを研究する為に、最近では和紙を用い、筆ペンを描画材として描いている。

和紙に筆ペン(顔料色筆ペン)は相性が良く、「大胆な線」「繊細な線」を併せて描ける良さを持っている。紙面に数ポーズ(同一モデル)を重ねて、空間場面構成を瞬時にしながら描く方法で行っている。

「Art of 20 歩」作品展へ賛助出品
名古屋芸術大学アートスクエア
(北名古屋市文化勤労会館)
2022.12.03 ~ 12.08

